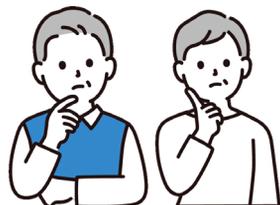


アドバイザー通信も10号になりました。そこで今回は、地域の情報発信についてこれまでの内容を振り返ります。ぜひ、地域に合った情報発信を検討するヒントにしてください。

地域の広報って何のため？



自治会の行事予定などは自治会だよりや回覧板で知らせているけれど…それじゃダメなの？

もちろんそれも立派な広報です！
地域広報の目的は、情報発信を通じて

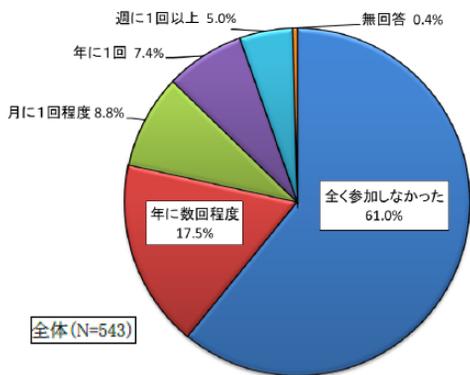
地域住民のみなさんとの関係を作る こと

「うちの自治会ではきちんと情報が伝わっている！」
というところは、今の方法でも問題ありません

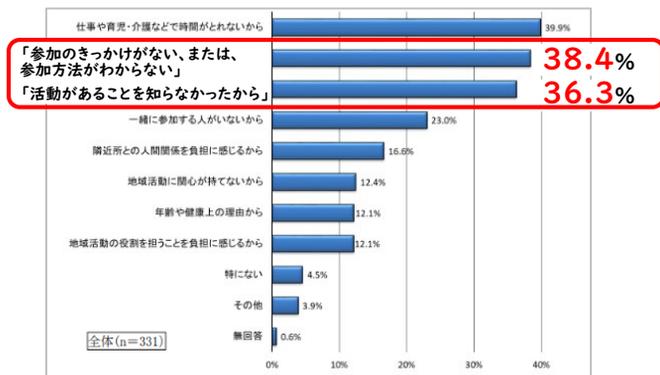


しかし、市政アンケート調査では…

◆ 過去1年間で地域活動に「全く参加しなかった」と回答した人が**61.0%**



◆ その理由の上位に「参加のきっかけがない、または、参加方法がわからない」「活動があることを知らなかったから」



令和6年度市政アンケート調査「地域の活動やまちづくり」より

まだまだ情報が伝わっていない人たちがたくさんいるのが現状

情報が伝わっていないと…

行事に参加したいけど、いつどこでやっているのかわからないんだよね…



地域活動への参加や理解が進まない

何をやってるのかよくわからないのに会費を払う意味あるの？



関係が上手く作れない



地域のこと、活動のことを知ってもらうことが関係づくりの一步
そのきっかけの一つとして、情報発信はとても大切です！

いざ情報発信！その前に

情報発信の前に考えておくべきことは、目的と体制（チーム）です。

「始めてみたけれど続かない」ということにならないよう、地域のみなさんで検討しましょう。

目的を考えよう！

広報はあくまでも手段です。様々なツールがありますが「これ始めれば万事解決!」というものはありません。また、目的によって使うツールや発信する内容も変わってきます。

何のために情報発信をおこなうのか、しっかり考えましょう。

住民同士のつながりをつくりたい



運営に関わるメンバーを増やしたい



加入者を増やしたい

若い世代や子育て世代にもっと参加して欲しい

◆ 目的によって発信する内容を検討しましょう

○イベントへの参加者を増やしたいなら

- ・告知の記事を増やす
- ・過去の様子を写真付きで紹介する

○自治会活動への理解を求めたいなら

- ・清掃やパトロールなどの活動の様子を発信する
- ・防犯灯の設置など成果を報告する

体制（チーム）を作ろう！

現在、回覧板用のお知らせや自治会だよりの作成など、自治会の情報発信を会長が一人で担っているというところも多いのではないのでしょうか。

内容によっては、取材や記事の作成、Web媒体に掲載したりと多くの作業が発生し、一人でこなすには負担が大きくなってしまいます。

一人に負担が集中しないように、役割を分担できる体制を作りましょう。

個人の負担を減らし、無理なく続けられる体制を作ることで、継続的な情報発信に繋がります。

文章を書くのが得意です



デザインならできるよ!



Webならまかせて!



現在のメンバーでは難しい場合は…

地域に呼びかけ、サポーターを募集しましょう!

地域にはさまざまな方が暮らしています。呼びかけをおこなうことで「なにかお手伝いできるかも…」という方が見つかるかもしれません!

募集する場合は、何をしてもらおうのかを事前に決めておきましょう。

- ブログ・SNSなどの更新・管理
 - ・Webに関する仕事をしている方
 - ・自分でブログを作っていたり、SNSの更新に慣れている方
- 取材や記事の文章作成
 - ・写真を撮るのが趣味の方
 - ・ライターの実験がある方
- 活動回数や報酬などの待遇面も考慮しておきましょう

どんなツールを使えばいいの？

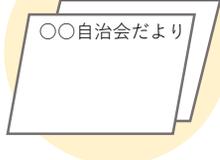
情報を得る方法が多様化し、インターネットで情報を得る人たちが増加しています。
紙とブログ、ホームページ、SNSなどとの併用が有効です！

これまでの主な情報発信

回覧板



広報紙



掲示板



プラス

ホームページ
ブログ



SNS



これまでの紙だけの広報にデジタルツールをプラスすることで、情報発信の幅が広がります

「これを使っていれば絶対に全員に伝わる！」というツールはありません。色々なツールを併用しながら発信し、目に留まる機会を増やすことが必要です。

特に、SNSはサービスごとに利用者層が違うので、様々なツールで発信することで、より広くアプローチができます。

「ここを見れば、地域の情報がわかる」というツールがあると、緊急時のお知らせなどに便利です



【各SNSの傾向と特徴】

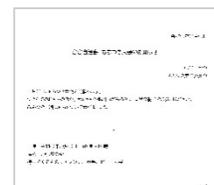
	ユーザー数※	ユーザー傾向	特徴
LINE	約9,700万人 (2024年3月時点)	ほぼ全世代が利用 60～70代の高齢者の利用者も多い	・ 家族や友人間の連絡に使用されることが多い ・ 通話もできる ・ 個人に直接情報を送ることができる
X (Twitter)	約6,700万人 (2024年11月時点)	20代が中心	・ 文章が中心 ・ 写真や動画も投稿可能 ・ リアルタイムの情報が得られる ・ 拡散性が高い
Instagram	約6,600万人 (2023年11月時点)	10～20代が中心 女性が多め	・ 写真や動画などビジュアルが中心 ・ ハッシュタグ (#) で情報の検索が可能
Facebook	約2,600万人 (2019年3月時点)	30～40代が中心 男性が多め	・ 写真と文章で投稿 ・ シェア機能があり、情報の共有がしやすい ・ ビジネスでの利用者が多い
TikTok	約3,300万人 (2024年11月時点)	10～20代が中心	・ 15秒～3分までの短い動画が中心

※ユーザー数は月間アクティブユーザー数を掲載

やっぱり紙が良い!という意見も

地域にはデジタルに慣れていない人もいます。情報が届かないという人が出ないように、紙との併用も検討しましょう。

写真を増やす、文字の大きさの変化でメリハリをつけるなど、紙でも作り方を工夫することで、目にとまりやすくなります。



同じ内容でも、見出しをつけたり文字の大きさを変えるだけでも見やすくなります



ツールを選ぼう！

利用者が少ないツールを選んでも、効果は上がりません。

ツールを決める前に、まずアンケート調査をしてみませんか。住民のみなさんの現状や意向を知ることで、より効果的な情報発信をおこなうことができるようになります。

アンケート調査が難しいときは、一般的に利用者が多いツールを選択するのも一つの方法です。情報発信の目的や使いたい機能を検討し、自分たちの地域に合った方法を見つけましょう！

運営メンバーで考えてみよう！



みんなが普段使っているものがいいよね

LINEだと幅広い年代の人が使ってるみたいだから、試してみてもいいかもね



自治会の内外関係なく、広く見てもらって活動を知ってもらいたいな

ブログやHPだったら、色んな人から見てもらえるんじゃないかな



なるべくお金がかからないほうがいいけど...

インスタグラムやFacebookなどのSNSだと無料で使えるよね。他にもなにかサービスがないかな



住民だけが見ることができるようになりたいね

パスワードや限定公開の設定ができるサービスを探してみよう



更新したことがみんなにすぐに伝わるといいな

LINEだと通知がいくから便利だね。ブログやHPは更新したことがわかりにくいから、LINEやインスタグラムなどのSNSと併用するのはどうかな



デジタル化を進める際に大切なのは、無理をしない、無理強いをしないことです。まずは「役員同士のやり取りにデジタルツールを使ってみる」ところから始めてみませんか。

「デジタルツールの導入を検討しているけれど、なにから始めればいいのかわからない」「ツールの使い方がわからない」など、なんでもお気軽にご相談ください！



【連絡先】

西区 地域支援課(西区役所3階 55番窓口)

地域広報アドバイザー 藤野ゆかり

電話：092-895-7036

メール：fujino.y10@city.fukuoka.lg.jp